

# 平成 23 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : KDDI(株)、(財)九州先端科学技術研究所、  
(株)セキュアブレイン、横浜国立大学、(株)KDDI研究所、  
ジャパンデータコム(株)

研究開発課題 : 国際連携によるサイバー攻撃の予知技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 23 ～ 27 年度

代表研究責任者 : 武笠 貴史

■ 総合評価 : 適 (評価点 37 点 / 50 点)

## (総論)

引き続き研究開発を推進すべきである。

## (コメント)

- 十分な研究体制から計画以上の成果を得られることが期待できる。
- サイバー攻撃の変化は激しいため、臨機応変な対応が求められる。
- 本研究課題は、今後の情報通信社会の構築あたり極めて重要であるが、我が国で必ずしも十分な研究体制があるわけではない。当該研究課題を通してサイバー攻撃への官民含めた対応チームの基礎を作ってほしい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

全体として計画時の目標にほぼ達しており、計画以上の成果や知見も得られている。

(コメント)

- すでに目標にほぼ達した研究開発があるだけでなく、計画以上の成果や知見を得た研究もあり、論文・特許数の達成状況から見ても十分な成果が得られている。
- 平成23年度前倒し分についても期限内に目標に達成できる内容と考える。
- 現在までは計画通りに研究が行われている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

予算計画書に基づいた効率的な執行を行っている。

(コメント)

- 計画から大きくずれることなく研究資金を執行するだけでなく、節約を行った点が評価できる。
- 平成23年度前倒し分についても、適正な研究資金の執行が行えると考ええる。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

#### (総論)

計画通りに実行可能であるが、状況の変化に応じて柔軟に対応することが求められる。

#### (コメント)

- 現在の研究開発の進捗状況から、計画を十分に実行可能であると考ええる。
- 国際連携については、個人情報保護の扱いの変化、サイバー空間防衛など状況が急激に変化しており、これらに柔軟に対応可能な計画であることが求められる。
- 国際連携は目的ではなく、手段であるはず。国際連携により当該研究テーマの推進にどう役立てるか考えてほしい。

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

#### (総論)

効率的な予算計画であり、適性である。

#### (コメント)

- 効率的な予算計画であると考ええる。
- 適正と考える。

## (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

### (総論)

研究開発課題の目標達成のために十分な体制である。

### (コメント)

- 研究開発を実施できる研究実績を有する研究員が多数参加するため、研究計画以上の成果を得られることが期待できる。
- 参画する研究者の数が比較的多いため、研究開発がバラバラに行われないう、全体の統括を十分に行う必要があると考える。
- 通信事業者、大学、ベンダー企業、ISP が協力することが当該事業において重要であると思われる。NICT と連携を持っていることも好ましい。